

平成30年2月9日

守谷市議会議長 殿

報告者 渡辺 大士

東海第二原子力発電所 視察・研修報告

標記の件について、次のとおり 参加 したので報告します。

視察・研修日	平成30年1月30日（火）
視察・研修場所	茨城県 東海村 東海第二原子力発電所
視察・研修項目	東海第二原子力発電所の変遷とこれから
参加者	守谷市側 議長副議長を含む市議会議員18名、事務局2名、坂経済部長、高橋交通防災課長
	相手側 地域共生部：猪股部長，矢沢氏，勝山氏他
視察・研修目的	東海第二原子力発電所が今年度に20年延長になる可能性があるので現在状況と原子力発電所内部を自らの目で見て今後を議会全体で考える。
視察・研修内容	福島第二原子力発電所の概要説明 現場施設内部視察
視察・研修総括 (今後の取組み等)	守谷市議会では東海第二原子力発電所に対しては過去に20年延長をしないように答申を出している。しかしながら現状の東海第二原子力発電所を見ずに答申を出していたことを鑑み、今回、議員全員を対象に研修を行った。実際に足を踏み入れて感じることで、より理解を深め、今後の市の判断の是非を話し合う材料となった。

視察・研修内容

東海第二原子力発電所ビクターズホールにて東海第二原子力発電所の概要説明を受け、現場視察のスケジュールを確認した後、着替えて現場視察を行った。

現場視察ではまず入口のセキュリティ説明、体験から始まり東日本大震災当時の状況がどのようなものであったか、使用している原子炉は同タイプなので丁寧に説明があった。また、今後の対応の説明を受けながら施設内部を見学した。想定される災害の津波の被害や想定外の災害規模で可動が不可能になった場合の対応を現在はどうのようにしてとられているか原子炉建家の周辺をまわり説明を受けた。

また建家内部にも入り、建家内の構造について説明を受けながら見学した。

見学の際は線量計を各自装着し、見学終了時に被爆検査を行いどの程度内部で被爆したかを確認していた。各委員共に $0.00 \mu\text{Sv/h}$ の被爆であった。現場視察終了後は再度ビクターズホールへ戻り質疑応答を行い視察は終了した。

原子炉建家内まで見学したことにより、視察終了後 TV 等で内部の映像を見た際、内容がよく頭に入ってくるようになりより注視観察することができるようになった。以前に都市経済常任委員会で視察見学を行った福島第二原子力発電所同様、現在東海第二原子力発電所は発電所としては機能していないが職員が毎日約 300 名程度作業にあたっていること等を考えると原子力発電の費用対効果は高いとは思えなかった。原子力発電所から 100km 圏内にある本市においては、東海第二原子力発電所に対し、稼働 20 年延長をしないように答申を出しているが、今後のエネルギー政策、住民の安全、安定供給についてより一層考えるために多くの議員で視察したことは良いと感じた。現在の東海第二原子力発電所における安全対策、災害対策に関しては、現状出来るうる最大限の配慮を行っているように感じたが、それに係るコストが電気料金に上乗せされていくことを考えると今後の原子力発電所の新設、再稼働については住民の理解を得るのは一層難しくなるのではないかと感じた。